

MGS2年、3年の皆さん、おはようございます。今日から2021年度となり、それぞれが進級し、新たな気持ちで登校してくれたことと思います。昨年1年間は、新型コロナウイルス感染症対策のため、いろいろな制約があり、窮屈な1年間でした。そして、新型コロナウイルス感染症は日本で、世界中でまだまだ拡大しています。これまでの日本の感染者数は49万人、亡くなった方は9000人を超えました。全世界の感染者数は1億3000万人を超え、死亡者数は300万人を超えようとしています。ワクチンの接種もなかなか進まず、東京と首都圏エリアでは陽性者の数は減らず、非常事態宣言を解除した大阪や兵庫では再び拡大していることを考えると、私たちは油断することなく感染防止に努めることが求められます。感染防止に対しては自分や家族の生命と健康を守るだけでなく、友達や学校を守ることであることをきちんと理解して日々感染防止を怠らないで下さい。

この感染症の拡大を目の当たりにして、現代の人々の活動や経済がいかに国境を越えたものとなっているのかを、皆さんも理解したのではないのでしょうか。オリンピック・パラリンピックが1年延期され、今年の開催も混とんとしているのを見ても分かると思います。

この危機の特徴は、世界各地で同時に起きているということです。オリンピック・パラリンピックには外国からの観客は受け入れないことがすでに発表されました。世界中の国が鎖国状態になっています。どうすれば食い止めることが出来るのかが見えない中で不安が広がっています。ここで、君たちに理解して欲しいのは、この感染の拡大は自然現象ではなく、一人一人の行動を通して、世界全体に大きく広がる社会現象だということです。君たちがやらねばならないことは、自分の行動を変えることです。一つ一つの行動において、自分だけでなく他の人を意識する必要があります。すべての人々が地球の市民としての責任を自覚することが大切です。新型コロナウイルス感染症のパンデミックは遠からず終息するとは思いますが、しかし、人類が知らない感染症、未知のウイルスは今後も発生すると思われます。パンデミックになる前に、適切な予防策を取れるシステムを作る必要があります。MGS の生徒の皆さんが、医学的、生物学的、化学・薬学的、法律的、経済的にそのシステム構築に貢献してくれる大人になってくれることを、切に願っています。このコロナ禍においても、MGS の君たちが前向きに努力し、いろいろな面で成長するためには、勉強があり、勉強することが、

君たちの「ノブリス・オブリージュ」です。ヨーロッパで生まれた「ノブリス・オブリージュ」という観念は、もともとはフランス語で、nobleが高貴なとか貴族のという意味で、obligeは義務という意味ですから、直訳すると「貴族の義務」となります。昔のヨーロッパの貴族は特権階級でしたが、戦争になれば率先して最前線に立って命がけで戦う義務も課せられていました。現代では、日本でもいろいろな学校が、この言葉を使っており、「ノブリス・オブリージュ」は、「人の上に立ち権力を持つものには、その代価として身を挺して果たすべき責務がある」と解釈されています。MGSの君たちには、この「ノブリス・オブリージュ」の精神を理解し、実践していただきたいと思っています。私は、ノブリス・オブリージュを「尊き責務」と言い換えています。君たちは明星でノブリス・オブリージュを担っている人間であることの自覚を持って、日々、学業に学校活動に懸命に励んでもらいたいと思います。校訓である「健康・真面目・努力」をあらゆる面で実践することが君たちの「尊き責務」であり、21世紀をリードしていく存在になるには一番大切なことです。言い換えると、MGSの生徒としての自覚と努力が一番大切だということです。MGSであるがゆえに学業でも、探究学習

でも高いレベルを与えられ、ハードルを越えていくことを求められます。そのプレッシャーに押しつぶされることなく、自分の出せる力を出せばいいのです。努力は必ず報われます。人と比べることなく、背伸びすることなく、前向きに考え、前向きに行動し、地道に努力を重ねればよいのです。ありのままの自分を大切に、自分なりの成長の道を歩んで下さい。MGS の生徒諸君が、自分の夢の実現に向けて健康で、真面目に努力を続けること、それが「ノブリスオブリュージュ、尊き責務」です。3年生諸君はこの尊き責務を果たした先に素晴らしい栄冠があることを忘れないで下さい。2年生諸君は、いろんなことにチャレンジすることがノブリスオブリュージュだと思って、果敢に挑戦して下さい。君たちの MGS 生徒としての自覚と努力で素晴らしい1年になることを期待して、2021年度始業式の式辞とします。以上